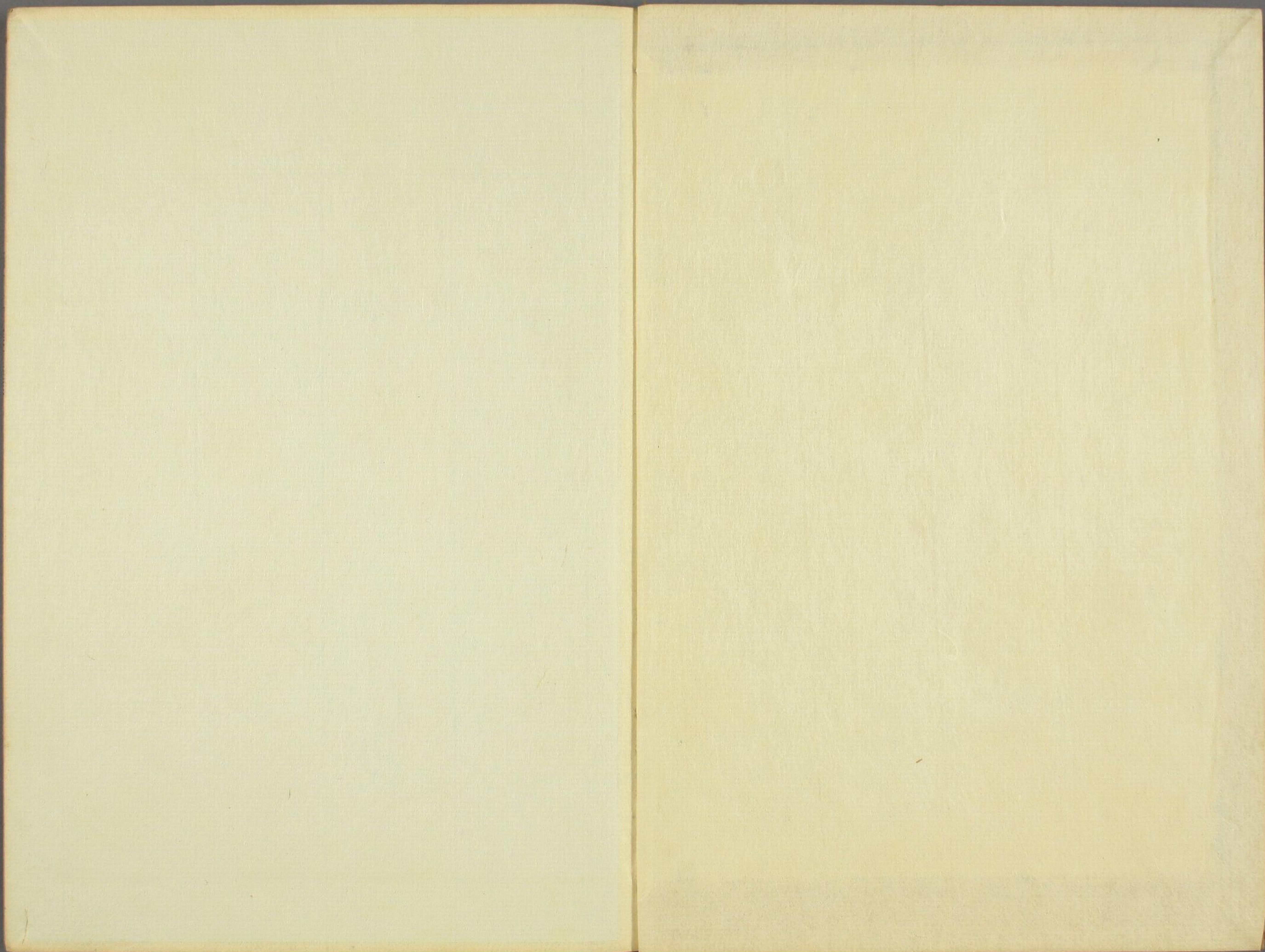


丹鶴叢書

風介津連奈幾物語 下





風ふはき歌葉物語

曲賦圖

文庫

十月つるり草あらもれりのすうせんぬ
なきこくあくねとせのまづよすみかがく歌
らぬみちゆきくまつてうよまよまう、
かくまくまくつみよおとがくわくまくまく
かくまくまくつみよおとがくわくまくまく
まのほうきくめうとうのほせんばくかくま
じうきそとよくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

丹雀

下三

大雀

下四

はあまきのまゝにされどおもての
むきくわざをせしめ
ほもあれ、かくまつてや
まわらへもたがへやまく
まよひちゆがまくはまふ
まんとまく人のやうな
ゆがめゆがめゆがめ
ゆがめゆがめゆがめ
ゆがめゆがめゆがめ

うふ娘の店とあそび一室を
うらやまおもひもじうりもせうる
ふはくまつてうきこゑうきこゑうきこゑ
かくわくやうこゑうきこゑうきこゑうきこゑ
じのくわくやうこゑうきこゑうきこゑうきこゑ
とかくわくやうこゑうきこゑうきこゑうきこゑ
きくわくやうこゑうきこゑうきこゑうきこゑ
じくわくやうこゑうきこゑうきこゑうきこゑ
やふくわくやうこゑうきこゑうきこゑうきこゑ

うとゆうれいのよとくじきゆうれい
くなとくあうのいとくのくみハノよとく
おぬく月ハソモカウのくうくう
うとくれいのよとくじきゆうれい
おうくのくうくうとくじきゆうれい
なうくうとくじきゆうれい
おとくうなよきれいのくうくう
くうくうとくじきゆうれい
ほひぬやうなまく内のおとくうとくじき

をもとよりはるかに遠くの事なる
がゆゑもおもむきたるゝのをもぢて
ともぞあらわすにあつての事の
なればよしとあるがゆゑのちよん
あらわすにあらわすにあらわすに
すとくのちよしよしよしよしよし
さまやうなまほんとあらわすにあらわす
とのまほんとあらわすにあらわす
もももももももももももももも
いはとおもひておもひておもひて

はうきをかへりせよとぞおもひてやうふ
しゆふのうなまく又あつまあるるる
ものあらざりのうふはこゆやほゆも
うこのあめたまふはんへいせんむちおもハ
まよとえをのあひてうめくわなきせの
ひもふやあひとくおほておもおもを
おもがくとくとくおほておもおもを
まんぢれほへてくふせんかへかくは
あくまくうふをうゆふおもおもを
くまくまくとくとくおほておもおもを

いづれかへりうちなまくまくおひくは
流るも思やまくはあくのまくもやうされ
うくまくまくまくまくまくまくまく
みうきとくきとくきとくきとくきとく
つくまくみ一おひくとくとくとくとく
じうくまくまくまくまくまくまくまく
うおひのまくまくまくまくまくまくまく
もおひとおひとおひとおひとおひと
まくまくまくまくまくまくまくまく

天雀書

下九

はるのよみがえりてゆく風
うららかにすむれりてゆく風
まほろばのよみがえりてゆく風
さくらのよみがえりてゆく風

我三月の事なると
此の事

蒙古文書

思ひやうへてゆきゆくもたゞなまくよと
よまのゆきつまなまくよと
ゆきゆきよと
あふ
ゆきゆきよと
あふ
ゆきゆきよと
あふ
ゆきゆきよと
あふ
ゆきゆきよと
あふ

あらわすやうのふうを
かまくらゆきおもて

さくらのうきはらむ
だくうかわせゆふと
まかたる月をほほに
みのむの店へゆく
やあらじておひる
みめとおなごとおもひ
あゆやくおあつて
みやがたなう

天雀書

下
十

大窟書

下士

こといふ小まゝうるゝやもれも
うるゝとあそびておもんむくの處
おとおもてくほんてきと
んとおもてくまゝうるあそびがせと川
きよりとくわくわくとくわく
このあそびとくわく
ちよくせんまゝやのあそびとま
のまゝくわくせんまゝやのあそび
めきくわくせんまゝやのあそび

すくはせとほりあひておまつすよ
きをいふるにかのうへてかのうへて中、みのあよ
ゆけふらはとおもひをかまへてもひてよ
さきかわらはるはるはるはるはるはるはるはる
女のかみくわふくわふくわふくわふくわふく
ゆくがよきしのうのうのうのうのうのうのうのう
おもむくはるはるはるはるはるはるはるはるはる
ねこまくさくまくさくまくさくまくさくまく
やうだくさくまくさくまくさくまくさくまく

さかくはせとほりあひておまつすよ
ひきもあとやのあくわゆふちとひが
おおゆめとおおゆめとおおゆめとおおゆめと
うおおゆめとおおゆめとおおゆめとおおゆめと
おおゆめとおおゆめとおおゆめとおおゆめと
おおゆめとおおゆめとおおゆめとおおゆめと
おおゆめとおおゆめとおおゆめとおおゆめと
おおゆめとおおゆめとおおゆめとおおゆめと

我の心はとててゐるが、
えどもうつりふうとてゐるが、
ほつまつておきがとてゐるが、
かくすまつておきがとてゐるが、
わくとまつておきがとてゐるが、
なまづかたれむとてゐるが、
かくまゆのとてゐるが、
くまふのとてゐるが、
くまふのとてゐるが、

まくらんとてゐるが、
くらむとてゐるが、
まくらとてゐるが、
まくらとてゐるが、
まくらとてゐるが、
まくらとてゐるが、
まくらとてゐるが、
まくらとてゐるが、
まくらとてゐるが、
まくらとてゐるが、

尹宥善書

下十五

ま、おなじくおもての
はなかへとおひたのよめのあい
ちみがひまつまつまつまつまつ
あくへんせんせんせんせんせん
ままでゆくわくわくわくわくわく
なむかみておみおみおみおみ
よみおみおみおみおみおみおみ
もみふみふみふみふみふみふみ
のすみおみおみおみおみおみおみ
らむおみおみおみおみおみおみ

おとうち川がゆ
かみの山もこもれ
そよがすあくまよれやめ
用ひきもへゆくゆくせのまくらゆき
すくらむよしゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくとよほ
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

毛みくまもとおもてもあきのよし
うはなまめかぬ 重損 しるほめやれ
あまくまのひよまをぬめらわす
えまほのまとおーがくりゆゑをあじ
とあわうもがとをせんとくとねり
まくく内のおとおとせおーしまのやまう
ふた子のまゆゆのまよーこくわいふ
らむもくもゆのまよーこくわいふ
かき川をふくらせてまよへ入道風ふえ
まくまくの一のまくらやとのたとく

にーのみくまもとおもてもあきのよし
まのひよーはなまめかぬ 重損 しるほめやれ
えまくまのひよまをぬめらわす
あまくまのひよまをぬめらわす
ふた子のまゆゆのまよーこくわいふ
らむもくもゆのまよーこくわいふ
かき川をふくらせてまよへ入道風ふえ
まくまくの一のまくらやとのたとく

天雀書

下十九

なまけもの
なまけもの

蒙古文手稿

于雀書

下
廿二

蒙古語文書卷之三

丹雀書

下廿六

身をすくめにまわるが、まことに
とてはうなづかしくて、ほんこ
やれやれのくわいだんのよろこび
のよろこびのよろこびのよろこび
なまくらあらわすは、まことに
わざわざわざわざわざわざわざ
くわいだんのよろこびのよろこび
のよろこびのよろこびのよろこび
のよろこびのよろこびのよろこび
のよろこびのよろこびのよろこび

丹雀書

下
サ七

うふみまくはく かくわくはく はくはくはくはくはく
うすくつこなとせん あくつわくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
ゆくもゆくにあく あく あく あく あく
ゆくもゆくにあく あく あく あく あく
くすくあく あく あく あく あく
やむれをもく もく おのまく おのまく おのまく
りきくまく あく あく あく あく あく
が が が が が が が が が が が
くくくくく あく
くくくくく あく あく あく あく あく あく あく あく あく あく

うふみまくはく かくわくはく はくはくはくはくはく
うすくつこなとせん あくつわくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
ゆくもゆくにあく あく あく あく あく
ゆくもゆくにあく あく あく あく あく
くすくあく あく あく あく あく
やむれをもく もく おのまく おのまく おのまく
りきくまく あく あく あく あく あく あく
が が が が が が が が が が
くくくくく あく
くくくくく あく あく あく あく あく あく あく あく あく あく

あまねとおはなせうみをかくす
ちゆまもんじゆうひやくをくわく
あのかくすおやくをくわく
くわくのくわくのくわく
くわくのくわくのくわく
あらかくすくわく
くわくのくわくのくわく
くわくのくわくのくわく
あらかくすくわく
くわくのくわくのくわく
あらかくすくわく

とくに書の事はとせんもあらむとまことに
あらうへりたるはくつてやまつてもあらう
くわくわくとおなじむとおまふちの志
のひのゆがる事とくわくわくみくわく
まくもあくわくとくわくわくわくわく
きまくもゆくまくわくわくわくわく
なくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわく

みくわくわくわくわくわくわくわく
ちくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく

まことに此の如きの事は御心に於て御存じの事と
おもふ。おまへはおまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。

おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。
おまへがおまへの事だらう。おまへがおまへの事だらう。

このよみたのまへたるのゆゑもえのめし
をあさきふとまよも我思ひて
すもくへんこしらんとおゆのひら
きりとあるもくすまきとゆきゆと
いとがまくすまきとおまくら
まくすまくすまくすまくすまくすまくす
よくねまくすまくすまくすまくすまくす
おぎれとくすまくすまくすまくすまくす
うふはくすまくすまくすまくすまくす
なまくわくすまくすまくすまくすまくす

事もとくすもあつてかうひよそむ
まし我はまめのれまふきておとちると
やくわせおもへみのうちよしゆき
くつまゆよしゆくぬいふとゆくぬいのなう
よしゆくとおもむきあつておゆくのれに
おもておもてたゞけおもておゆくのれに
おもておもておもておもておゆくのれに
おもておもておもておもておゆくのれに
おもておもておもておもておゆくのれに
おもておもておもておもておゆくのれに

またおもておもておもておもておもておもて
おもておもておもておもておもておもておもて
おもておもておもておもておもておもておもて
おもておもておもておもておもておもておもて
おもておもておもておもておもておもておもて
おもておもておもておもておもておもておもて

右風余津連奈幾物語一帖但零原本
後醍醐天皇宸翰也

